

平塚市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について

令和 7 年 1 月

1 令和5年度（2023年度）一般廃棄物の処理状況について

（1）ごみ処理基本計画

項目	単位	基準年度 平成30年度	実績値 令和3年度	実績値 令和5年度	中間年度 令和7年度	目標年度 令和12年度
人口（*1）	人	258,004	257,883	258,463	252,171	247,384
発生量あたり排出 原単位	g/人・ 日	871	831	782	849	815
家庭系ごみ排出原単位 （資源再生物を除く）	g/人・ 日	491	475	435	440	390
事業系ごみ総排出 量	t	20,061	18,190	18,262	19,560	19,560
家庭系ごみ資源化 率	%	25.4	25.4	26.1	30.9	34.9
総資源化率	%	25.4	25.5	25.3	29.5	31.8
最終処分量	t	831	716	649	783	769
二酸化炭素排出量 （*2）	t-CO ₂	22,358	18,325	18,367	18,612	17,192

*1 人口は、平成30年度、令和3年度、5年度は10月1日時点。令和7年度及び令和12年度は推計値。

*2 二酸化炭素排出量は、「焼却量×合成樹脂類の割合×可燃分の割合×排出係数」で算出しています。

ア 計画に掲げた目標値との比較

（ア）発生量あたり排出原単位 中間目標クリア

中間目標値に対し、令和5年度の発生量あたりの排出原単位は782g/人・日であり、67g/人・日下回りました。

（イ）家庭系ごみ排出原単位 中間目標クリア

中間目標値に対し、令和5年度の家庭系ごみの排出原単位は435g/人・日であり、5g/人・日下回りました。

（ウ）事業系ごみ総排出量 中間目標クリア

中間目標値に対し、令和5年度の事業系ごみの総排出量は18,262tであり、1,298t下回りました。

（エ）家庭系ごみ資源化率 中間目標未達成

中間目標値に対し、令和5年度の家庭系ごみ資源化率は26.1%となり、4.8ポイント下回りました。

（オ）総資源化率 中間目標未達成

中間目標値に対し、令和5年度の総資源化率は25.3%となり、4.2ポイント下回りました。

(カ) 最終処分量 中間目標クリア

中間目標値に対し、令和５年度の最終処分量は６４９ｔであり、１３４ｔ下回りました。

(キ) 二酸化炭素排出量 中間目標クリア

中間目標値に対し、令和５年度の二酸化炭素排出量は１８，３６７ｔ・Ｃｏ_２であり、２４５ｔ・Ｃｏ_２下回りました。

イ 平塚市一般廃棄物処理基本計画における取組状況一覧表について（別添）

(ア) 家庭系ごみ対策

３１項目 進捗状況 順調

(イ) 事業系ごみ対策

１８項目 進捗状況 順調

(ウ) 市民・事業者・行政による協働の実践

８項目 進捗状況 順調

(エ) 情報共有・啓発の推進

１１項目 進捗状況 順調

(オ) 不適正・不法排出防止等の啓発

９項目 進捗状況 順調

(カ) 安全で安定した処理体制の確立

１８項目 進捗状況 順調

(キ) 新たな技術革新等の調査・研究

８項目 進捗状況 順調

ウ 計画目標値未達成事項（資源化率）について

(ア) 資源化率を上げる取組

a 家庭系ごみ量（資源再生物除く）の削減

- ・可燃ごみ戸別収集ポスティング資料を対象世帯（２０，０００世帯）に配布。
- ・コンポスター（生ごみ自家処理容器）の販売
- ・フードドライブの実施、生ごみ自家処理相談会の実施
- ・子ども向け啓発事業（ごみ学級）で食品ロスについて教育
- ・減量化についてイベント、ウェブ、回覧板での啓発

b 資源再生物量を増加させる

(a) 資源化品目数を増やす

- ・新たな資源化（製品プラスチック）の研究

(b) 分別の徹底（可燃ごみから資源再生物への転換）

- ・ごみ減量化推進員と古紙回収量増加に係る実験を実施

c 事業系ごみ量の削減

- ・ 分別の徹底（産業廃棄物との分類、古紙への転換）
- ・ 食品リサイクルの推進
- ・ 環境事業センターでの展開検査

※収集運搬業者が焼却場に搬入したごみ袋内を開封し、適正に分別されているか確認。

- ・ 多量排出事業者への立入調査し、分別の指導

(イ) 鎌倉市（資源化率全国１位）との比較

資源再生物量（年間１人当たり排出量/kg）の比較

令和４年度実績	鎌倉市	平塚市
飲料用カン	2.2	3.4
金属		2.7
飲料用ビン	8.8	6.4
紙類（計）	44.6	24.3
新聞	4.5	2.9
雑誌・古本・ボール紙	16.3	11.5
段ボール	13.9	9.5
紙パック	0.2	0.4
ミックスペーパー	9.6	0.1
布類	5.8	4.7
ペットボトル	3.3	4
容器包装プラスチック	16.1	11.7
剪定枝（家庭）	28.6	0.6
廃食用油	0.3	0.3
製品プラスチック	2	
計	111.7	58.1
家庭系ごみ資源化率	46.7%	25.9%
計（剪定枝除く）	83.1	57.5
家庭系ごみ資源化率 （剪定枝除く）	39.4%	25.6%

【参考】可燃ごみ組成調査：可燃ごみの袋内に容器包装プラスチックや資源再生可能な紙類が含有



(ウ) 資源化率向上への取組

- ・ 分別の効果的な周知
- ・ 新たな資源化の手法による資源再生物の増加
- ・ 事業系一般廃棄物の分別、減量、リサイクルの促進

(2) 生活排水処理基本計画

ア 処理形態別人口

年度		計画処理人口	生活雑排水適正処理				生活雑排水未処理				生活雑排水適正処理率
			計	下水道	農業集落排水	合併浄化槽	計	単独浄化槽	汲み取り	その他	
H26	2014	257,200	255,523	250,824	2,508	2,191	1,677	758	919	0	99.3%
H27	2015	258,246	255,350	250,537	3,058	1,755	2,896	2,095	801	0	98.9%
H28	2016	258,126	255,260	250,531	3,035	1,694	2,966	2,146	820	0	98.9%
H29	2017	258,439	255,384	250,700	3,038	1,646	3,055	2,415	640	0	98.8%
H30	2018	258,004	255,176	250,549	2,981	1,646	2,828	2,248	580	0	98.9%
R1	2019	257,729	255,116	250,554	2,912	1,650	2,613	2,082	531	0	99.0%
R2	2020	258,422	254,723	250,257	2,864	1,602	3,699	3,243	456	0	98.6%
R3	2021	257,883	253,985	249,569	2,831	1,585	3,898	3,479	419	0	98.5%
R4	2022	257,713	255,336	250,844	2,765	1,727	2,377	2,000	377	0	99.1%
R5	2023	258,463	255,702	251,265	2,731	1,706	2,761	2,419	342	0	98.9%

(ア) 生活雑排水適正処理率は、横ばいあるいは微減微増で推移しており、総人口のうち98.9パーセントが公共下水道、農業集落排水及び合併浄化槽により生活雑排水を適正に処理しています。

イ 生活排水処理量

年度		浄化槽汚泥					し尿		
		合計	合併浄化槽	単独浄化槽	排出量	1日当たり量	汲み取り	排出量	1日当たり量
		(人)	(人)	(人)	(KL)	(KL/日)	(人)	(KL)	(KL/日)
H26	2014	2,949	2,191	758	6,613	18.1	919	1,118	3.1
H27	2015	3,850	1,755	2,095	6,511	17.8	801	1,162	3.2
H28	2016	3,840	1,694	2,146	6,586	18.0	820	1,074	2.9
H29	2017	4,061	1,646	2,415	6,124	16.8	640	1,061	2.9
H30	2018	3,894	1,646	2,248	5,634	15.4	580	1,051	2.9
R1	2019	3,732	1,650	2,082	5,596	15.3	531	1,078	2.9
R2	2020	4,845	1,602	3,243	5,681	15.6	456	1,182	3.2
R3	2021	5,064	1,585	3,479	4,696	12.9	419	776	2.1
R4	2022	3,727	1,727	2,000	4,442	12.2	377	669	1.8
R5	2023	4,125	1,706	2,419	4,941	13.5	342	633	1.7

(ア) 生活排水処理量は、前年度に比べ約463キロリットル（9パーセント）の増加となりました。